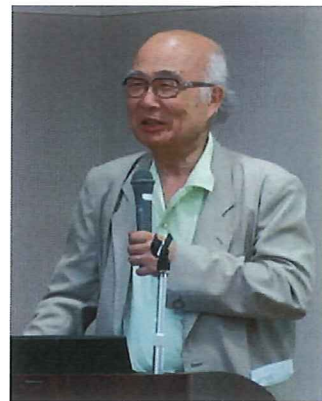


西武線トラカレ講座

あとカルタ

～しゃべること たべること～

講師: 岩田誠 先生 東京女子医科大学 名誉教授
(一財)言語交流研究所理事



毎年行われる、様々な専門分野の先生方がお話しくださるオープントラカレ講座。今年は各地で地域の人たちとお話を聞こう！と、ここ西武線地域では岩田先生を迎えて7/19(日)東村山サンパルネにて開催しました。

仏・米の病院へ留学され、多くの著書を出版されている先生とヒップファミリークラブとの出会いは、5～6年前。ハイハイしている赤ちゃんは既に歩いているんです！と言った鈴木てるちゃんのことばに驚かれ、赤ちゃん研究会「ベベフィールド」という子育て中のお母さんたちがワイワイがやがやと、楽しく活動している場に足を運ばれたのがきっかけです。現在は私たちの多言語活動を、ポジティブで前向きに継続する後押しをしてくださっています。



当日は、内外含め約160人の参加。司会は多世代の5人、この夏アメリカ交流へ行く中1女子、高校留学から帰国した高2の男子、思い切ってメキシコへWIPに出かけるママ、そしてお父さん、3世代で多言語を楽しんでいるフェロー、と色とりどりのメンバーで楽しくスタート。

テーマは「たべること しゃべること」・・・お話は、たべることもしゃべることも同じ口でします⇒実はこれ、「命がけ」なんです・・・というくだりから始まりました。毎日当たり前のようにしている、「たべる」や「しゃべる」事が、命がけのこと！？子どもも大人も、一気に引き込まれて行きました。

そもそもどうして声は、必要なの？聞き手も一緒に考えながらお話が進みます。最も人間に近いと言われているチンパンジーは、何故喋れないのか？それは、チンパンジーと人間との、喉の構造の違いから、だそうです。会場のあちこちから「へえ～」と、驚きの声。チンパンジーの喉は、気管と食道が立体交差のように分かれていて、赤ちゃんも生まれた時はチンパンジーのように咽頭が高く、息を吸いながらおっぱいも飲むそう。それが二足歩行になったことで、人間の咽頭は、スクランブル交差点のようになる。立ったことで、内蔵が下がり気管が下げられ、肺が確保されると、声を出すための呼吸の調節ができるようになっていった！人間は二足歩行になったことで、手が使えるようになり、脳が発達した。ものすごい進化！！ どのお話も驚きの連続で、とても興味深いものでした。



▲シェアリングタイム

講演後のちび輪では、どのグループも感想がいっぱい。また、新たな疑問なども活発にでました。シェアリングタイムの、ネアンデルタール人が歌っていた!?事と、私たちの活動の中の「ことばを歌うこと」についての質問や、木の上で生活していた動物が、なぜ地面に降りて来たのでしょうかなどの疑問にも、ひとつひとつ丁寧に答えてくださりました。お奥様との会話を例に出されるところなどは、日常生活が垣間見られ、気さくなお人柄が感じられました。もっとお話を聞きたかった！という沢山の声がありました。

感想文より

- ・色々なことを知れてうれしかったです。寝ながら歌ったり、話したりすることは、あまりないので、こんどやってみたいです。(小2)
- ・食べながら、飲みながら息をしていた気がしていました。無意識に息を止めていたことになります。普段何気なくしている行動は、人間以外には出来ないことだったりするので、(いろんなことを)楽しみながらやりたいです。(中1)
- ・最近、つかまり立ちを始めた子供が、喉の高さが下がってきたのかな～とおもいました。もうすぐお話をする準備も出来てきているのだと思うと、ワクワクしてきました。(子育て中のママ)
- ・多言語活動を始めて半年、なんで踊って歌うんだろ？？と不思議だったのですが、しゃべる、動くこと、(人間らしいこと)が必要なのだとかがって、岩田先生のおかげで、繋がってきました。(40代女性)
- ・普段では聞けないアカデミックなお話でした。ホモサピエンスは、直立歩行し、道具、ことばを生んでいった。ことばの大切さを再認識しました。(60代男性)



▲地域より、お礼の気持ち
感謝状と似顔絵を ♪



手作りレイを、プレゼント！



▲ 岩田先生を囲んで、会場の全員でパチリ～